

## 地域教材の開発とその可能性について — 東上鉄道株式会社の設立をめぐって —

菲 塚 雄 一

### 要 旨

日露戦争の直前、1903年に東上鉄道株式会社が設立された。埼玉県比企郡小川町地域を対象に東上鉄道の設立とその背景を教材化する試みを通して、探究的な学習における地域教材の開発とその可能性について論ずる。併せて、社会科教員の養成において、地域教材開発の必要性について考察する。

キーワード：探究的な学び、自分事、内発的動機

### 1. はじめに

本稿が対象とする地域は、埼玉県比企郡小川町地域である。小川町地域は、ユネスコ無形文化遺産に登録された細川紙を中心とする小川和紙の産地として有名である。秩父山地と関東平野の結節点に位置し、大消費地の江戸と秩父地域などの産地を結ぶ陸上交通の要であった。こうした地理的優位性を生かし地元の小川和紙に加え、秩父地域からの絹、生糸、葉煙草、熊谷方面からの米穀などの集散地として商業が発達した。現在の小川町には、東武東上線やJR八高線が乗り入れており、地域発展の原動力となってきた。

本稿では、小川町内の中学生を対象とする中学校社会科歴史的分野の「日清・日露戦争と近代産業」の単元における1時間扱いの授業づくりを通じて、東武東上線の前身である東上鉄道株式会社の設立に関する資料の教材化を試みることで、地域教材が有する可能性と社会科教員の育成について論ずることとする。

### 2. 教材の考察

#### 2.1 東上鉄道株式会社の設立

東上鉄道株式会社の設立発起人には、川越の豪商出身であり東京で広く商業を営んでいた内田三左衛門、出雲大社の宮司の家柄（出雲国造家）出身の千家尊賀などが名を連ねていた。1903年（明治36年）12月23日、逓信省にて東上鉄道の仮免許申請書を提出したが、途中出資者が集まらず、紆余屈折を経て、後に東武鉄道社長となった根津嘉一郎に会社創立を託すことになった。

発起人たちは東京から新潟県長岡へ至る路線の構想を有していたが、第一期計画の終点の渋川がある群馬県の旧国名が上野国（上州）であることから、会社名は東京と上野国（上州）それぞれの頭文字を取って「東上」とした。

東上鉄道は1908年（明治41年）10月6日、東京府北豊島郡巢鴨町字氷川、埼玉県入間郡川越町、比企郡松山町、児玉郡児玉町および群馬県の高崎を経て群馬県群馬郡渋川町に至る鉄道の敷設仮免許を受けた。ついで1911年（明治44年）11月11日に東上鉄道創立総会が開かれ、取締役社長に根津

嘉一郎が就き、本社を東京府東京市本所区小梅瓦町の東武鉄道本社に置いた。

東上鉄道が発起された1903年（明治36年）ころは、国内ではまさに産業革命が進展している時期であり、それと並行して民間の鉄道路線が全国に拡大している時期でもあった。外交面では、日清戦争後の三国干渉を機にロシアとの対立が深まっていた。これに伴い国内世論もロシアに対する主戦論が日増しに高まっている状況であった。こうした中、ロシアは、シベリア鉄道の建設を進め、1903年（明治36年）には、東清鉄道の租借を通じてヨーロッパから極東ウラジオストックまでの鉄路を通じさせた。

## 2.2 東上鉄道設立趣意書

1903年（明治36年）、この東上鉄道の発起にあたり作成されたのが本稿で主たる資料として扱う「東上鉄道設立趣意書（現代語訳部分）」（資料1）である。

### 資料1 東上鉄道株式会社設立趣意書（1903年） （現代語訳部分）

そもそも東上鉄道の路線は、・・・池袋から・・・川越町にいたり、・・・松山を経て花園村、児玉・藤岡を経て渋川に至る路線を第一期の計画とし・・・、第二期は沼田を経て長岡に接続するものである。武（埼玉）・上（群馬）・越（新潟）三州のそれぞれ中央部を貫き、166マイルの路線で東京と長岡を結ぶものである。これを信越線の226マイルと比較してみると、正に60マイルを短縮できる。・・・これによる運送時間や運送賃の節約の利益はいうまでもないが、戦時にあっては、兵馬糧食の輸送を活発にすることで最も鉄道本来の目的にかなう唯一の線路となる。

他方で、新潟県北部地方は、土地が豊かで物産に恵まれているにもかかわらず、三面を山に囲まれ一面は海に面しているため交通の便が悪く、経

済の発展が見られない。東上鉄道の開通により、これらの不便を解消して物産の販路を拡張し、殖産興業を著しく発展させることができる。

今まさに、シベリア鉄道の開通に伴い、東アジアの状況はますます混迷することになり、特に日本海に面する新潟県北部の地域は、運輸交通・国防軍備ともに大きな影響を受けることになる。・・・もし、不幸にして外国と戦争になり、敵の戦艦が来航し日本海をねらうようなことになれば、東京と長岡の地を結ぶ東上鉄道の重要性は、まことに大きいものとなる。

以上のように、東上鉄道の運輸交通上の利益と国防軍備の必要から、東上鉄道会社の設立を行ったのである。

資料1から、当初の東上鉄道について、①既成の信越線との比較により、路線距離の大幅な短縮とそれによる運賃と輸送時間の節約、②豊かな物産に恵まれた新潟県と消費地東京を結ぶことによる上越地方の経済発展、③シベリア鉄道の開通に伴う日露間の緊張を背景とした軍事輸送の効率化など軍事面での貢献、これらが東上鉄道の利便性として企図されていたことが読み取れる。

次に、この設立趣意書に添付された東上鉄道株式会社敷設線路平面図から、上述の設立趣意書の主旨を読み取ってみよう。

図1の全体図では、信越線等の既成路線が黒の実線で示されている。東上鉄道は、池袋から渋川までの第1期線が白黒で、第2期線が白で示されている。特に第1期線は、渋川までほぼ直線に近く、また第2期線は渋川から長岡まで現在の上越線に近いルートを計画しており、路線距離の大幅な短縮を目指したことが読み取れる。

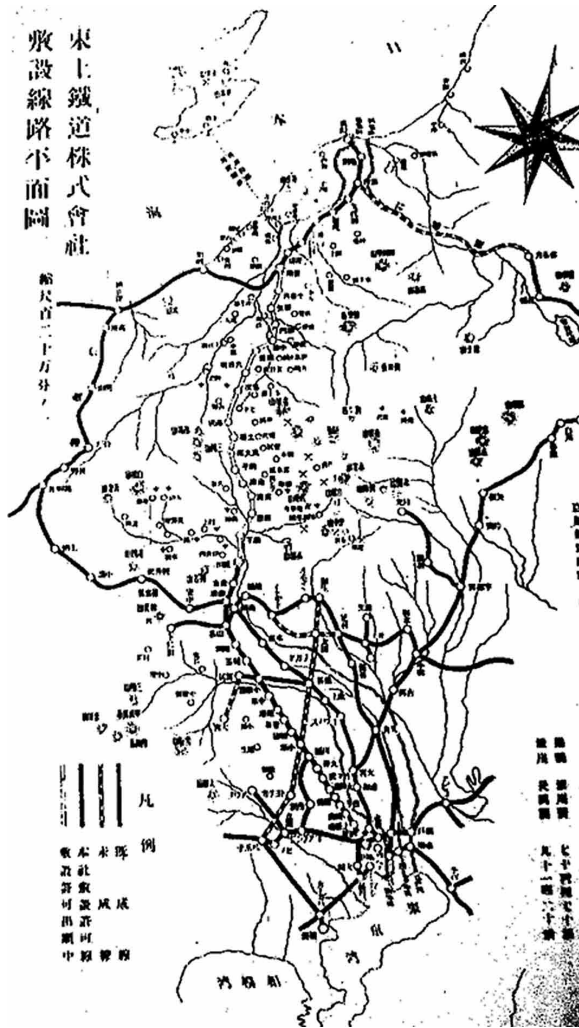


図1 東上鉄道株式会社敷設線路平面図（1903）

図2は、第1期線部分を拡大し、開設予定の駅を筆者が赤色で着色して小川町の位置を■で示した図である。路線距離の短縮を目指しているため、小川町に駅が開設される計画になっていないことが読み取れる。

これらの資料や図を教材化し、産業革命の進展やロシアとの対立などを背景に、近代化を進める日本において鉄道に期待された多面的な役割を理解させたい。

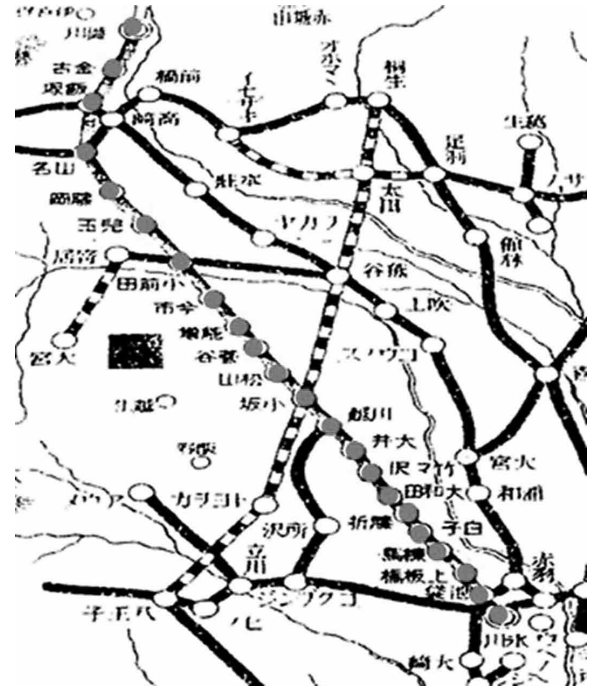


図2 東上鉄道株式会社敷設線路平面図  
第1期線部分拡大図

### 3. 地域資料の教材化

東上鉄道に関わる資料を活用して教材化を試みた事例を二例紹介する。一例は、筆者が試みた事例（産業革命の進展―東上鉄道のはじまりから考える―）である。もう一例は、筆者が担当する社会科教育法を受講する本学の学生が試みた事例（戦争と鉄道）である。

#### 3.1 産業革命の進展―東上鉄道のはじまりから考える―

##### ア 授業のねらい

○資料から本時の学習課題を設定させる。

（学びに向かう態度）

○産業革命の進展やロシアとの対立などを背景として、当時の鉄道に期待された多面的な役割を理解させる。（知識・技能）

## イ 本時の展開

|     | 学習活動                                                                                                                                                                                      | 指導上の留意点                                                                                                                                 | 評価                                                               |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 導入  | <p>・資料の図を読み取り、「変だぞ」と気づいた内容をもとに学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ、東上鉄道の最初の計画では小川町駅がないのか。</p> </div>                                 | <p>○図1 東上鉄道株式会社敷設路線平面図から、設置が計画されている駅名に着目させ、そこから生じる疑問を学習課題につなげる。</p>                                                                     | <p>○資料から本時の学習課題を設定している。(学びに向かう態度)</p>                            |
| 展開  | <p>・資料の文章を読み、意味がわからない言葉や文章を赤色のふせんに書き込む。</p> <p>・資料の文章を読み、東上鉄道の重要性が読み取れる文章を青色のふせんに書き込む。</p> <p>・各班に分かれ、模造紙上に同じような内容のふせんをまとめて貼り、関連のあるまとまりを線でつなぐ。</p> <p>・班内で学習課題について考察し、その結果をプリントに記入する。</p> | <p>○資料を読み解くために、生徒からあがった疑問を全体化し、パワーポイント等を活用して説明する。</p> <p>○ふせんのまとまり相互に、どんな関連があるのか、班内で考察しながら線で結ぶよう指導する。</p> <p>○できるだけ多面的に考察できるよう指導する。</p> | <p>○産業革命の進展やロシアとの対立などを背景として、当時の鉄道に期待された多面的な役割を理解している。(知識・技能)</p> |
| まとめ | <p>・学習を振り返り、班内で新たな謎をみつける。</p>                                                                                                                                                             |                                                                                                                                         |                                                                  |

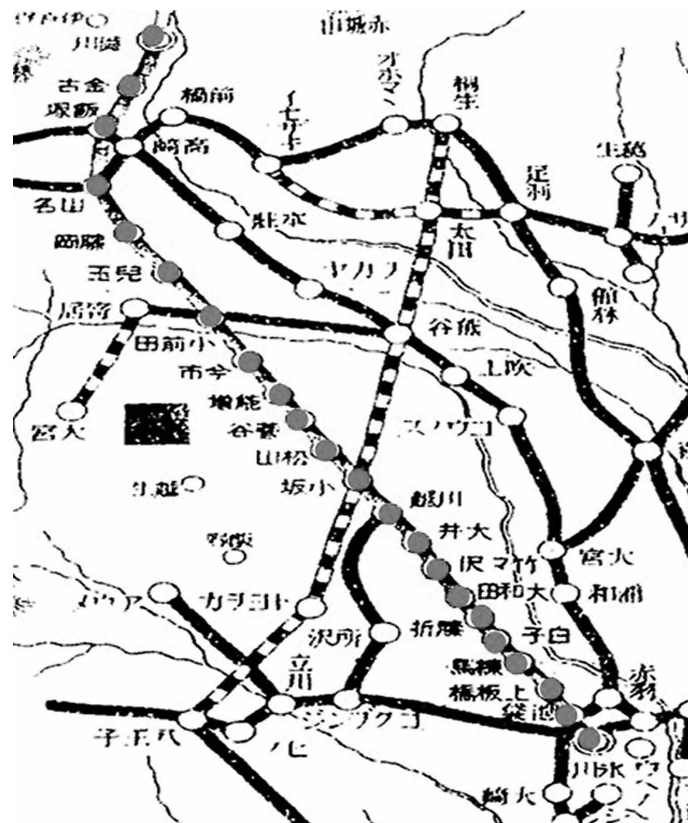
## ウ 授業用の学習プリント

「産業革命の進展」学習プリント **東上鉄道のはじまり**

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

1 下の図は、1903年に計画された東上鉄道の最初の路線図です。

東上鉄道株式会社敷設線路平面図（1903）部分



①図中の■が小川町です。「あれ？変だぞ」と気づきましたか？

②学習課題を設定してみましょう。

なぜ、東上鉄道の最初の計画では（ ）がないのか。

2 その謎を、下の資料から解明してみよう。

## 資料 1 東上鉄道株式会社設立趣意書（1903年）意訳

**A** 東上鉄道の路線は、池袋から川越町にいたり、松山を経て花園村、児玉・藤岡を経て渋川までの路線を第一期の計画とし、第二期は沼田を経て長岡につながる。武州（埼玉など）・上州（群馬）・越州（新

図) 三州のそれぞれ中央部を貫き、166マイルで東京と長岡を結ぶ。これを信越線の226マイルと比較すると、60マイルも短縮できる。

**B** これにより、運送時間や運送賃の節約ができる。それに加え、もし将来戦争がおこったとしたら、兵士や食料、武器などの輸送に大いに貢献できる唯一の線路となる。

**C** 新潟県北部地方は、土地が豊かで生産物に恵まれているにもかかわらず、山に囲まれ、海に面しているため交通の便が悪く、経済の発展が見られない。東上鉄道が開通すれば、これらの不便を解消し、生産物を広く販売して殖産興業を発展させることができる。

**D** 最近、シベリア鉄道が開通した。これにより、日本や中国、朝鮮半島などの東アジア地域がますます混乱するだろう。特に日本海に面する新潟県北部は、交通や国防軍備の面で大きな影響を受けることになる。もし、不幸にして外国と戦争になり、敵の戦艦が来航し日本海をねらうようなことになれば、東京と長岡の地を結ぶ東上鉄道の重要性は、まことに大きいものとなる。

①資料の文章を読み、「これ何?」「意味がわからない」と思った言葉や文章を            で囲み、赤色のふせんに書き込もう。その後、意味がわかったらその意味をふせんに書き込もう。

②資料の文章を読み、「東上鉄道ができるとこんなにいいんだよ。」「東上鉄道は、こんなに重要な鉄道なんだよ。」などが読み取れる部分に            を引き、青色のふせんに書き込もう。

③各班に分かれ、同じような内容のふせん同士をまとめてみよう。

④ふせんのまとまりができたら、次は、そのまとまりの表題（キャッチフレーズ）をつけてみよう。

⑤「なぜ、東上鉄道の最初の計画では（                      ）がないのか」、その理由を考察してみよう。

東上鉄道の最初の計画に（                      ）がないのは、東上鉄道が（                      ）マイルで東京と長岡を結ぶことで、信越線の226マイルと比べ、（                      ）マイルもの距離を（                      ）しようとしたからだと思っています。

なぜそうするする必要があったかという、（以下、各班で考えて記入しよう）

3 新たな謎がみつかりましたか？

ではなぜ、現在、（                      ）があるのか？

### 3.2 戦争と鉄道

#### ア 授業のねらい

○鉄道が軍事面で期待されていた役割について理解させる。(知識・技能)

#### イ 授業用の学習プリント

## 戦争と鉄道

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

1 鉄道の利点はなんだろうか。他の輸送手段と比べてみよう。

|      | 船舶（海上輸送） | 鉄道（陸上輸送） | 飛行機（航空輸送） |
|------|----------|----------|-----------|
| スピード |          |          |           |
| 輸送量  |          |          |           |

2 次の資料は、東上鉄道株式会社が設立された時に作成された「設立趣意書」です。

資料：東上鉄道株式会社設立趣意書（1903年）前半

東上鉄道の路線は、池袋から川越町にいたり、松山を経て花園村、児玉・藤岡を経て渋川までの路線を第一期の計画とし、第二期は沼田を経て長岡につながる。武州（埼玉など）・上州（群馬）・越州（新潟）三州のそれぞれ中央部を貫き、166マイルで東京と長岡を結ぶ。これを信越線の226マイルと比較すると、60マイルも短縮できる。

これにより、運送時間や運送賃の節約ができる。それに加え、もし将来戦争がおこったとしたら、兵士や食料、武器などの輸送に大いに貢献できる唯一の線路となる。

①東上鉄道の計画は

第1期：池袋から（ ）までつなげる計画

第2期：（ ）から沼田を経て（ ）につなげる計画

②東上鉄道と信越線と比較すると、東上鉄道はどんな利点が期待されるでしょうか。

信越線と比較し、輸送距離を（ ）マイルも短縮し、（ ）や運送賃を節約できる。

③東上鉄道は、もし将来戦争がおこったとしたら、どんな役割が期待されると書いてあるでしょうか。

（ ）や食料、（ ）などの輸送に大いに貢献できる。

3 次の資料は、「設立趣意書」の後半部分です。

資料：東上鉄道株式会社設立趣意書（1903年）後半

①最近、シベリア鉄道が開通した。これにより、日本や中国、朝鮮半島などの東アジア地域がますます混乱するだろう。特に日本海に面する新潟県北部は、交通や国防軍備の面で大きな影響を受けることになる。もし、不幸にして外国と戦争になり、敵の戦艦が来航し日本海をねらうようなことになれば、②東京と長岡の地を結ぶ東上鉄道の重要性は、まことに大きいものとなる。

この資料を読んで戦争と鉄道の関係に興味を持ったAさんは、次のような戦争と鉄道に関わる資料をみ

つけました。

資料：時事新報記事（1930年5月21日）

日清戦争のあと、遼東半島を清に返還させた「三国干渉」は、ロシアが満州に進出するチャンスを与える結果となった。ロシアはこの機に乗じて「東清鉄道」の敷設権を手に入れる。この鉄道は、ハルビンを中心に東西に伸びる重要な路線で、経済・軍事の両面で非常に重要だ。鉄道が作られると、その周辺にはロシア人の居住区ができ、鉄道を守るという名目で軍隊も配備される。こうしてロシアは鉄道を利用して満州支配を強めていったのだ。

①下線部①の「シベリア鉄道の開通」が、なぜ日本を含む東アジア地域を「混乱」させることになるのでしょうか。時事新報の記事を参考にしながら、下の文章の（ ）に該当する語句をいれてみましょう。

ロシアは、日清戦争後に日本が獲得した（ ）半島を（ ）干渉によって清に返還させ、（ ）鉄道の敷設を通じて満州への軍事的支配を強めていった。これによって日本とロシアの関係は悪化し、日露間の軍事的緊張が高まった。

②下線部②の「東京と長岡の地を結ぶ東上鉄道の重要性は、まことに大きいものとなる」について、なぜ東上鉄道の重要性が大きいものとなるのでしょうか。時事新報の記事を参考にしながら、下の文章の（ ）に該当する語句をいれてみましょう。

東上鉄道が目指す長岡は（ ）県に位置し、大陸と向かい合う位置にある。日露間で戦争がおければ、（ ）県は日本の軍事力を送り出す拠点になる。東上鉄道は、そこに（ ）や食料、（ ）を輸送する重要な輸送手段になるからである。

#### 4. おわりに

町の中心にある小川町駅が「当初の計画にはない」という事実は、小川町で生活する生徒にとってとても大きなインパクトを与える。「なぜ当初の計画に小川町駅がないのか」という疑問は、他人ごとではなく自分事として学習課題に主体的に取り組む入り口となるのではないだろうか。探究的な学びを進める上で、その導入部で「なぜなんだろう？」「しらべてみたい。」という生徒の内発的動機を生み出すことが探究の成否を決める要素の一つである。その点で、地域教材の開発は大き

な可能性を有していると考ええる。

他方で、働き方改革が推進される中、多忙な校務に従事する社会科の教員にとって、自力で地域の歴史を掘り起こしその成果を教材として授業に取り入れる十分な余裕がない実態がある。その結果、社会科の教員を目指す学生たちは、中学校での社会科学習の中で地域教材から学んだ経験がない者が多い。こうした負の再生産を改めるためにも、社会科教員の養成にあたり、地域教材を開発する経験が重要となる。本稿で紹介した「戦争と鉄道」の教材に取り組んだ学生は、今回初めて地域教材の開発にチャレンジした学生である。この

教材を作成した後、実際に小川町を訪問し、町立図書館等で東上鉄道に関わる地元の鉄道誘致をめぐる動きを伝える新聞記事などを収集し、歴史に対する地域からの新たな視点を見出そうと研究している。

担当する社会科教育法を受講する他の学生たちの声を紹介し、本稿を結びたい。

A：実際に教材研究をする面白さがあった。何も知らないところから自分で調べて知ることの楽しさが分かった。この楽しさを生徒に伝えられるようになりたいと思った。

B：教材研究を行い、自分で活用できそうな資料をみつけてどんな授業をしていくのか考えることができました。私は、生徒がどれだけ興味・関心を持って取り組んでくれるのかが大切だと思っており、面白い疑問を活用していくことで自然と話を聞いてくれるような授業を教材研究の土台から作成していきたいと思います。

C：私は、マニュアル通りに授業をしていればよいと最初は思っていましたが、やはり教材研究が大事だということがわかりました。自分の中の発想があつてこそ、生徒も先生も楽しくなると思うからです。

D：初めて教材研究をしてみて、使う教材によって授業が大きく変わり、そこから広がっていくものを予測するのが大変でした。よりよい授業を目指す上で教材研究は欠かせないのでこれからもしっかりと取り組みたいです。

#### 参考文献

小川町編・発行（2000）『小川町の歴史 資料編近代6』  
小川町編・発行（2003）『小川町の歴史 通史編下巻』資料編6近代  
出典）本文中の資料1、図1、図2は、上記小川町編・発行『小川町の歴史 資料編6近代』p.653～p.658より。  
なお、資料1については、筆者が現代語訳して教材として使用したものである。